

**製品名: GAD-65/67 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab11247**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	65kDa

**抗原情報**

遺伝子名	GAD1/GAD2
別名	GAD1; GAD; GAD67; Glutamate decarboxylase 1; 67 kDa glutamic acid decarboxylase; GAD-67; Glutamate decarboxylase 67 kDa isoform; GAD2; GAD65; Glutamate decarboxylase 2; 65 kDa glutamic acid decarboxylase; GAD-65; Glutamate decarboxylase 65
遺伝子 ID	2571/2572
SwissProt ID	Q99259/Q05329
免疫原	抗血清はヒト GAD1/2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 545-594

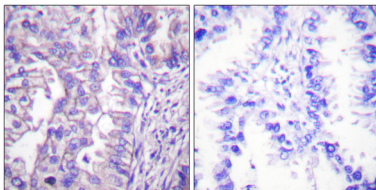
**背景**

グルタミン酸脱炭酸酵素1 (GAD1) Homo sapiens この遺伝子は、インスリン依存性糖尿病の主な自己抗原として同定されているグルタミン酸脱炭酸酵素のいくつかの形態の1つをコードしています。コードされている酵素は、L-グルタミン酸からγ-アミノ酪酸を生成する触媒を担っています。この酵素は、インスリン依存性糖尿病における自己抗原および自己反応性 T 細胞標的として同定されているため、ヒトの膵臓における病原性の役割が特定されています。この遺伝子は、スティッフマン症候群にも関与している可能性があります。この酵素の欠損は、発作を伴うピリドキシン依存症につながることを示されています。この遺伝子の選択的スプライシングにより、主な 67kD 型と頻度の低い 25kD 型の 2 つの産物が生成されます。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: L-グルタミン酸 = 4-アミノブタン酸 + CO(2),補因子: ピリドキサルリン酸,疾患: GAD1 遺伝子の欠損は、常染色体劣性対称性痙性脳性麻痺 (SCP) [MIM:603513]の原因です。脳性麻痺 (CP) は、運動および/または姿勢の神経疾患の異質なグループであり、推定発生率は出生児 250~1,000 人に 1 人であり、最も一般的な先天性障害の一つとなっています。対称性痙性 CP には非進行性のもも確認されており、メンデルの法則に従う常染色体劣性遺伝様式を示します。患者は、発達遅延、精神遅滞、および時には表現型の一部としててんかんを呈する。機能:GABA の生成を触媒する。オンライン情報:グルタミン酸脱炭酸酵素のエントリ、類似性:グループ II 脱炭酸酵素ファミリーに属する。サブユニット:ホモ二量体。組織特異性:アイソフォーム 3 は、膵島、精巣、副腎皮質、およびおそらく他の内分泌組織で発現されるが、脳では発現しない。

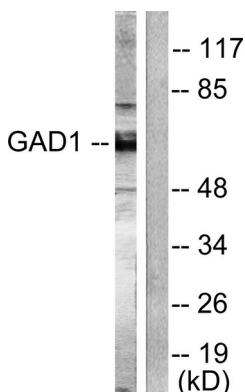
## 研究分野

アラニン、アスパラギン酸およびグルタミン酸代謝、ベータアラニン代謝、タウリンおよびヒポタウリン代謝、ブタン酸代謝、1 型糖尿病。

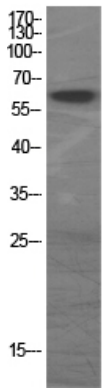
## 画像データ



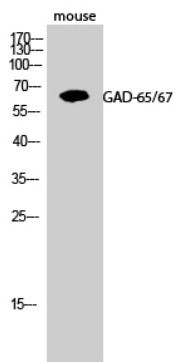
GAD1/2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



GAD1/2 抗体を用いたマウス脳ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



GAD-65/67 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



GAD-65/67 ポリクローナル抗体を用いたマウス細胞のウェスタンブロット解析